

第3章 西東京市の農業の目指す方向

- 1 将来像
- 2 基本方針
- 3 計画の体系
- 4 基本指標の設定

1 将来像

食の安心 みんなの健康 生活にうるおい

～住み続けたい農のあるまち・西東京市～

食・健康・生活は、市民生活を営むために欠かすことのできない重要な要素です。

この3つの要素を兼ね備え、市民の暮らしを支えるものが農業です。

本市は、利便性の良さとともに、市内のいろいろなところで「農」が感じられる住宅都市です。

この良好な住環境を維持し、農業者と市民の双方にとって、「西東京市の農業」が日々の暮らしの魅力となり、これからも住み続けたいまちとなることを目指します。



〔キャベツ畑の風景〕



〔果樹園の風景〕

2 基本方針

「住み続けたい農のあるまち・西東京市」を実現するために、次の4つの項目を基本方針とします。

- ① 食と暮らしを支える多様な農業を展開します。
- ② 多様な担い手が、生きがいややりがいを感じる農業経営をつくります。
- ③ 都市の貴重な農地を保全するとともに、農地の多面的機能を発揮することで、市民生活に安らぎや潤いを与えます。
- ④ 市民、地域及び行政が一体となり、西東京市の農業を支える取組みを推進し、都市と農業が共生するまちをつくります。

① 食と暮らしを支える多様な農業を展開します。

農業は、市民の食と暮らしを支えています。

市民が市内産農産物を購入する方法としては、スーパーマーケットやイベント等による即売会のほか、直売所が主なものとなります。

直売所は、農業者の経営にとっても主要な販路となっており、既に多くの市民が利用していますが、その情報が隅々にまで行き渡っているとは言えません。今後、直売所は、市民と農業者をつなぐ拠点としてだけでなく、農業の情報発信の拠点としての活用も望まれていることから、直売所のさらなる利用の促進を図ります。

また、市内産農産物を市内で消費する仕組みをつくることで、農産物の安定的な販路の確保、市民への新鮮な農産物の提供及び本市の農業への理解促進を図ります。そのため、市内産の農産物を「めぐみちゃんブランド」として市民や消費者、販売店へと定着させる取組みを推進し、付加価値の高い農業への転換を支援します。



〔梨まつりでの即売〕

② 多様な担い手が、生きがいややりがいを感じる農業経営をつくります。

後継者や担い手の不足は、本市に限らず、我が国の農業に共通する大きな課題のひとつです。

このため、若手農業者や女性農業者、新規就業者への栽培技術指導や経営指導の仕組みをつくることにより、農業経営者としての育成を図ることを支援します。

また、担い手不足の解消策のひとつとして、市民が農業に携わることができる援農ボランティア制度の活用を促進します。

このほか、本市の農業を先導する役割を担う認定農業者への支援の拡充について検討するとともに、規模や経営形態に関わらず、様々な経営形態の農業者に対し、持続的に農業を営むことができるための支援策についても、調査・研究を行います。



〔援農ボランティアの活動〕

③ 都市の貴重な農地を保全するとともに、農地の多面的機能を発揮することで、市民生活に安らぎや潤いを与えます。

農地は、農産物を生産するだけでなく、都市における市民生活をより豊かにする多面的な機能が改めて評価されています。

農地を保全するには、農業が安定的に持続されなければなりません。持続的な農業経営のために、生産緑地の保全・有効活用、良質な農産物生産基盤の維持を目指すとともに、適正に管理された農のある風景により、市民の農業への理解を得るため、農地の管理に努めます。

また、市民が農地の持つ多面的機能への理解を深めるために、これまでも取組みを進めてきた都市と農業が共生するまちづくり事業をさらに推進し、様々な場面で市民が農業と触れ合う機会の提供を拡充します。



〔農地のある風景〕

④ 市民、地域及び行政が一体となり、西東京市の農業を支える取組みを推進し、都市と農業が共生するまちをつくります。

これからの農業を維持・発展させるためには、市民や地域、行政が一体となって農業を支え、共生していくことが重要です。

そのため、農業と異分野との連携による農産物の消費拡大、農産物の付加価値向上のほか、市民が農業・農地・農産物に触れる機会を創出することにより、農作業を含めた農業への理解の促進を図ります。

また、市民等の農業体験を通じて、本市の農業・農地・農産物についての理解を深めるための施策として、市民農園全般のあり方について検討するとともに、農業体験農園の開設や利用者拡大に向けたPRを支援します。



〔次世代を担う子どもたちの農業体験〕

〔農業普及啓発プロジェクトのご紹介〕

本市では、都市と農業が共生するまちづくり事業の一環として、農業普及啓発プロジェクトを展開しています。

○ファームカー

農業に係る交流、情報提供、販売などの機能を融合させた〈ファームカー〉は、市内外の多くの方へ本市の農業を周知し、理解と関心を高めます。



ファームカーの活用イメージ

○イメージビデオ

本市の農業（歴史・取組みなど）、農業者・農産物のアピールポイントなどを紹介する〈イメージビデオ〉を制作し、各種イベントで活用するほか、庁舎モニター、本市ホームページ等で放映します。



農業者の作業風景



市内の農業や農地の現状紹介

○イメージソング

親しみのあり、印象に残る〈イメージソング〉を制作し、各種イベントや本市ホームページで放送するほか、庁舎の電話の保留音等で使用します。

メグ・マーチ（めぐみちゃんマーチ） ～西東京市農業振興イメージ・ソング～

[1番]

キャベツを刻みましょ
ブロッコリーは茹でましょ
真っ赤なトマト飾れば サラダのでき上がり

プチプチ シャ～キシャキ 美味しさ弾ける
どこにも負けない野菜食べてね（ねー）

メ・グ・メ・グ めぐみちゃん キャベツ頭がキュートでしょ！
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん 大地の元気を届けます
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん 市民と農家のマスコット！
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん シアワセの農（ミノリ）広げます
けやきの里のめぐみです



[2番]

実りの季節がやって来る
梨に、ぶどうに、柿、キウイ
真心こめて育てた よろこびの農（ミノリ）

たまらずノドなり 一口食べれば
豊かな香りと笑顔広がる！（ねー）

メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
キャベツ頭がキュートでしょ！
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
大地の元気を届けます
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
生まれも育ちも西東京
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
シアワセの農（ミノリ）広げます
けやきの里のめぐみです

[3番]

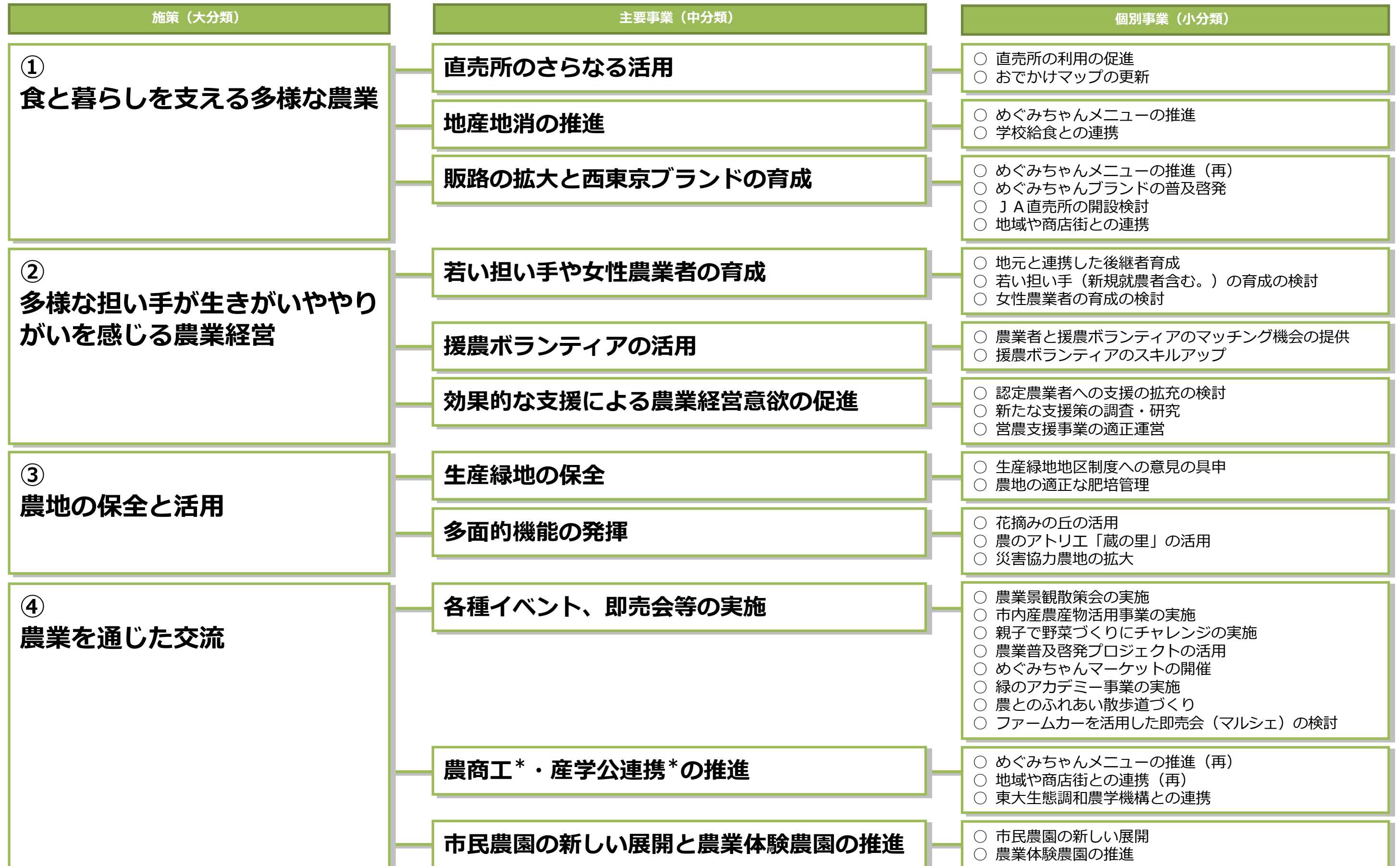
春の風吹いたら
みんなで出かけましょ
花と植木の里へ 笑顔で行きましょう！

ドキドキ 種まき やさしく苗付け
芽吹く喜びと 実る幸せ！（ねー）

メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
キャベツ頭がキュートでしょ！
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
大地の元気を届けます
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
市民と農家のマスコット！
メ・グ・メ・グ めぐみちゃん
シアワセの農（ミノリ）広げます
けやきの里のめぐみです

3 計画の体系

4つの基本方針（大分類）に基づき、以下、本計画の施策体系を示します。



4 基本指標の設定

本計画の計画期間に基づき、概ね 10 年後の平成 35 年度の市内農業に係る主要な指標を、次のように設定します。

① 農家数

平成 22 年現在の農家数は 276 戸(農林業センサス)であり、平成 17 年から 22 年までの 5 年間の傾向が続くものとして、平成 35 年度の農家数を概ね 205 戸と設定します。

なお、今後も引き続き本計画に基づく農業振興策を講ずることにより、設定数値以上の戸数確保に努めます。

② 農地面積

平成 35 年度の農地面積は、平成 14 年から平成 23 年までに平均で生産緑地が 2 ha、宅地化農地が 1 ha、合計で平均 3 ha ずつ毎年減少していることから 125ha (平成 23 年現在 155ha) を下回ることとなりますが、農地保全施策を展開することを考慮し 130ha と設定します。

③ 中核的な農家数

「中核的な農家」は、農業継続意向が高く、効率的でかつ安定的な経営を行うとともに、⑦の経営モデルに該当する所得を目標とする農家とし、認定農業者を含めた 80 戸を当該農家数として設定します。

④ 農用地利用集積目標

「中核的な農家」の農用地面積は、戸当たり農地面積 57.0a (平成 22 年農林業センサス) に 80 戸を乗じると 45ha となることから、平成 35 年度の農地面積の目標 130ha に基づき、農用地の利用集積目標は 35% と設定します。

なお、農業経営基盤強化促進法に基づく「農業経営基盤強化促進事業」及び「農地利用集積円滑化事業*」については、市域全域が市街化区域であるため、該当しません。

また、面的集積は困難なため、施設化等の推進により農地の高度利用を図り、実質的な経営耕地面積の確保に努めていきます。

⑤ 労働時間と農業所得目標

労働力は、主たる従事者1人と補助的従事者1人からなる家族経営を基本にして、パートタイマーを中心とする臨時雇用や援農ボランティア等の活用も考慮します。

労働時間は、農業者の健康や余暇時間を確保する観点から、農作業の省力化対策を積極的に進めるとともに、経営に合わせた臨時雇用や援農ボランティア等の活用により、主たる従事者1人当たりの年間労働時間を概ね1,800時間と設定します。

また、年間農業所得の目標は、他産業従事者と遜色のない水準を確保することを目標に、「地域農業をリードする農家」は概ね年間800万円、「中核的な農家」は概ね年間300万円以上～500万円と設定します。

なお、本市は、自給的な農家も少なくないため、10a当たりの所得目標を15～30万円と設定し、全ての農家が販売に取り組むことを目標とします。

⑥ 農業経営と農用地利用関係の改善

農産物の販売では、都市農業の利点を活かし、契約栽培や直売を主に市内流通を促進します。農業経営は、新たな管理手法を取り入れ合理化を進めるとともに、複式簿記記帳により、経営と家計の分離を図ることや青色申告の実施を進めます。また、臨時雇用や援農ボランティアによる労働負担の軽減及び家族間の役割分担の明確化による労働環境の改善を進めます。

さらに、関係機関及び関係団体の緊密な連携の下、認定農業者等の担い手の状況に応じ、(ア)地域の地理的自然的条件、(イ)営農類型の特性、(ウ)農地の保有及び利用状況、(エ)農業者の意向を踏まえた、効率的かつ安定的な農業経営の実現を後押しするため、農作業受委託等の取組みを促進します。その際、市は、関係機関及び関係団体とともに、こうした取組みが効果的かつ計画的に展開されるよう、地域の農業者をはじめとする関係者の合意の形成を図りつつ、認定農業者等の担い手が農業経営の改善を計画的に進めるための措置を必要に応じて行います。

⑦ 経営モデルの例示

経営モデルは、「中核的な農家」等、本市の農業を担う農業経営体を概ね5年間で育成する目標として、下表に示す営農類型別に設定します。

- (ア) 西東京市の農業をリードする経営体モデル (所得目標 800万円)
- (イ) 地域の農業を担う経営体モデル (所得目標 500万円)
- (ウ) 農業の広がりを支える経営体モデル (所得目標 300万円)
- (エ) 農業生産法人等企業的な経営体モデル (販売目標 1,000万円以上)

《西東京市営農類型別経営モデル》

営農類型	経営面積 (作付面積)	主な作物等	家族労働力 (雇用労働力、 ボランティア)	農業所得 (千円)	主な施設等
野菜 (直売+量販店等への 直接出荷)	80a(200a) 施設10a	トマト、キュウリ、ナス、 ホウレンソウ、コマツナ、 ネギ、スイートコーン、エ ダマメ、ブロッコリー、イ チゴ、サトイモ、ハーブ類 等	3人	10,000	パイプハウス
	40a(100a) 施設5a		2人	6,000	
野菜 (市場出荷+直売)	100a(250a)	キャベツ、ブロッコリー、 ダイコン、ホウレンソウ、 コマツナ、カブ等	2.5人	8,000	パイプハウス
	50a(150a) 施設5a		2人	5,000	
野菜 (直売)	80a(160a)	トマト、キュウリ、ナス、 ホウレンソウ、コマツナ、 ネギ、スイートコーン、エ ダマメ、ブロッコリー、イ チゴ等	2.5人	6,000	パイプハウス
	40a(100a) 施設10a		2人	3,000	
農業体験農園+直売	50a	農業体験農園	2人	6,000	体験農園用 施設
果樹 (直売)	100a (施設5a)	梨、ブドウ、キウイフルー ツ、カキ、ブルーベリー	2.5人	7,000	果樹用ハウス
	50a		2人	4,000	
花卉 (市場出荷)	80a 施設20a	花壇苗、鉢物	3人	10,000	鉄骨ハウス、パ イプハウス、暖 房機
	40a		2人	3,000	
植木	160a	サツキ・ツツジ類、コニフ アー類、ハナミズキ	2.5人	8,000	ミニシャベル、 クレーン付ト ラック、粉碎機
	80a		2人	5,000	
キノコ	10,000床 (菌床栽培)	シイタケ、シメジ	2.5人	6,000	シイタケ、シメ ジ栽培用施設
肉牛	200頭	肥育牛、繁殖牛、育成牛、 生肉販売	3人(1人)	10,000	牛舎、堆肥舎、 フォークリフ ト、ローダーシ ャベル

